

日本原子力発電（株）東海第二発電所における現地調査結果報告（案）

平成24年3月26日
原子力安全・保安院

1. 実施期間 平成24年2月13日
2. 実施場所 日本原子力発電（株） 東海第二発電所敷地内
3. 実施概要 平成23年東北地方太平洋沖地震による東海第二発電所の被害実態について「建築物・構造に関する意見聴取会」委員とともに現地で調査を行った。
4. 出席者 西川主査、小林英男委員、西谷委員、林委員、藤田委員
保安院：木下安全審査官、小畑安全審査官、増田係員
JNES：山崎主任研究員、日高主任研究員
5. 主な質疑応答
 - 耐震裕度向上工事の実施状況はどうか。
→原子炉建屋の配管サポート、ケーブルトレイ等、ほとんどの工事が終了している。
 - 当初設計時のスペクトルが大きいが、直接入力か。
→直接入力。
 - 側壁を嵩上げする波対策工事について、即実行できた点では良い教訓となった。
 - 3・11地震による被害は、津波被害だけと思っていたが、地震動による被害もあった。ただ、タービン軸受け箱が浮き上がっただけであり、基礎ボルトの問題と理解した。
 - タービン軸受け振動大の信号で原子炉が自動停止したとのことだが、一方、今回、地震動により軸受け箱の浮き上がりや動翼の接触といった事象が見られた。地震動に対するタービンの機械的破壊に対する裕度はどう評価しているのか。
→評価していない。

○設備の分解点検を実施していると思うが、外観検査で異常は見つかっていないが、分解点検の結果、変形やボルトの緩みといった事象は見つかっていないのか。

→Sクラス設備については分解しても異常は見つかっていない。一方で、その他の設備については、分解の結果モーターの油漏れ等のマイナーな異常が見つかっているが、構造的に問題となるようなものではない。

○変圧器の液面がスロッシングしたことにより、ラプチャーディスクから絶縁油が排出されたとのことだが、どのような状況であったのか。

→絶縁油に対する過度な加圧を防止するためにラプチャーディスクに据え付けられた針がある。今回、地震動とスロッシングによる揺動によって、針がラプチャーディスクと干渉し、絶縁油が排出された。

○つまり、そういった意味では想定外の事象によりラプチャーディスクから絶縁油が排出されたということか。

→そのとおり



地震影響調査（タービン中間軸受関連）



地震影響調査（損傷翼の確認等）



津波被害調査（取水口海水ポンプエリア）



地震影響調査（北側ポンプエリア）